

ふなこしはちまんじんじゃ ほうのう え ま 船越八幡神社奉納絵馬 ～絵馬に込められた思い～

初詣の時、皆さんは絵馬にどんな願いをこめますか？

絵馬には、10～30cmほどの小さなものから、150cmを超える大きなものまであります。小さな絵馬は、7世紀中ごろの都「難波宮」(大阪府)から出土したものが最古とされ、大きな絵馬は16世紀ごろから描かれるようになったといわれています。

詫間町大浜にある船越八幡神社の鳥居をくぐると、絵馬堂があります。ここにある絵馬は、平成5年、市指定有形民俗文化財に指定されました。絵馬はすべて大型のもので、歌舞伎を描いたものを中心に、船絵馬や合戦の絵馬、戦勝祈願の絵馬など、さまざまな種類のものがみられます。絵馬の年代は江戸時代から現代まで幅広く、最も古いものは江戸時代中期(寛保3年)の絵馬で、これは県内最古のとても貴重なものです。

船絵馬は、航海の安全祈願や、航海から無事に帰還した際の感謝の気持ちをこめて奉納されたものです。写真の絵馬は、栗島の有力な廻船問屋(荷主と船主を仲介し、積荷の管理を行う問屋)であった伊勢屋の船だといわれています。中心に大きく立派な船があり、乗組員や船の構造など細かい部分もしっかりと描かれており、当時の様子が鮮明に再現されています。このほか、網元が大漁を祝って奉納した絵馬もあります。

船越八幡神社では絵馬堂のほかに、拝殿の中にも絵馬が飾られています。大きな絵馬が並ぶさまは圧巻であり、当時の人々の思いを感じ取ることができます。新年の初詣では、自分の絵馬に願いをこめるとともに、昔の人々の思いがこめられた絵馬もご覧になってみてはいかがでしょうか。

<生涯学習課>



▲県内最古級の絵馬



▲江戸時代の船絵馬

今月の市民力

子どもの頃から凧たこが大好きだった仲間が意気投合して立ち上がった「うらしまの里凧の会」。約10年前からは子どもたちに昔の遊びを伝えたいと本格的に活動を始めました。日ごろは日本の北から南まで、凧とともに飛び回り、凧あげ大会に参加。人の交流や凧作りの技術の向上に励んでいます。「自分で作ることの喜びや外での遊びを通して、子どもたちだけでなく、大人にも凧のよさを知ってもらいたい。イベントや行事があれば声をかけてください。」と代表の谷口文芳さん。凧を通して市内の交流の輪が広がることを願います。

